

令和7年 8 月 21 日(木)

岐阜聖徳学園大学教育学部 保育専修「真鍋研究室」の学生の 施設実習を受け入れました。

令和7年8月21日(木)、岐阜聖徳学園大学教育学部保育専修「真鍋研究室」の学生4名が施設実習に来ました。はじめは緊張した様子でしたが、子ども達と活動を共にする中で、いつしか緊張もほぐれ、充実した実習になったようです。また、次のような感想をいただきました。

・1つ1つの遊びに先生方の意図やねらいがあるとわかり、子どもたちは楽しみながら「自分でできた」を体験できていると思った。

・施設内での職員の方々の連携はもちろん、園、小学校、他の施設との連携も多くされている事から、子どものため、保護者のためという部分をすごく感じた。

・特に前向きな言葉かけをしている場面を多く見て、見ている私たちも前向きな気持ちになった。子どもの様子にあわせて活動を展開したり、保護者が一緒に見学できる施設はあまり多くないと思うので、こういった施設がどんどん増えたらいいと思った。

・保護者と保育者が話し合いをしている姿を多く見て、誰も孤立しないようにチームで子どもの成長を支えることができるのが良いと思った。

・先生が保護者と親しくお話をしている姿が印象的だった。子どもだけでなく、保護者も楽しそうに先生とお話をする姿を見て、療育センターは家族とのつながりも大切にしているのだと感じた。

・子ども1人に先生が1人ついたグループ療育を見学したが、ひとりひとりが自由にやりたいことをするのではなく、先生が子どもの行動や発言をグループ全体で共有し、みんなで遊ぶことを意識されていたように感じた。